

第37回 ヤンマー学生懸賞

論文・作文募集

“農業”を“食農産業”に発展させる

耕す
のは、
未来だ。その視線が、
次の豊かさを見つける。

[募集期間] 2026年6月1日(月) ▶ 10月20日(火)

[入選発表会] 2027年2月5日(金)

論文の部 [大賞] 100万円 作文の部 [金賞] 30万円

お問い合わせ
フリーダイヤル
0120-376-530
(月～金 10:00～17:00)e-mail
ronbun@yanmar.comパソコンから
ヤンマー論文作文 検索
<https://www.yanmar.com/jp/agri/agrilife/prize/>
参考として第32回～第36回の入賞作品集を掲載しています。携帯から
QRコードにアクセスしてください▶

■ヤンマーの目指す農業の姿

“農業”を“食農産業”に発展させる

ヤンマーは、より高い生産性・より低い環境負荷・より強い経済性を追求し、これまでの機械化・省力化・資源の有効活用に加え、「食」の分野からも生産物の付加価値を高めています。

また、今までに培ってきたテクノロジーとソリューションで、持続可能な農業を実現し、食の恵みを安心して享受できる社会をめざし、農業を魅力あふれる食農産業へ発展させていきます。

■事業開始の背景

ヤンマーは、日本農業の転換期を迎えていた1990年、厳しい時代にも21世紀への夢と希望を持ち、先駆的な挑戦を試みる元気な農家やその集団が全国各地に誕生しつつあることを知り、「いま日本の農業がおもしろい～その変化と対応～」をスローガンとして、積極的に未来を語りエールを送ってまいりました。

その一方で、次世代を担う若者たちに農業と農村の未来について、自由な発想を論じてもらうことを趣旨として、「ヤンマー学生懸賞論文・作文募集事業」を開始いたしました。

■農業を取り巻く課題

農業が持続可能であり続けるために、今ある変化にどのように対応するかが重要な鍵となります。国連によると、現在約82億人の世界人口は、2050年には97億人まで増加する見込みです。また、近年の異常気象による農作物の不作が世界各地で報告されており、気候の変動は作物の生育に影響を与え、適期作業のタイミングが難しくなっています。日本の農業においても、高齢化や後継者不足が進み、離農が増加することで耕作放棄地が拡大し、農業生産量は減少傾向にあります。そんな中、平均経営耕地面積の大規模化など、いま農業を取り巻く環境は刻々と変化し、世界情勢が不透明な中、地球規模で様々な課題に直面しています。

あらゆる地域で経済発展を遂げ、人口が都市部に移動し、農業人口が益々減少していく中、少ない農業生産者が、増え続ける食料需要を賄っていくために、また、将来に向けて持続可能な未来（A Sustainable Future）を実現するために、現在の農業・食料生産の在り方そのものを進化・変革させていかなければなりません。

■趣旨

ヤンマーは、これまで追求してきた農業の「生産性」と「資源循環」を今後も継続し、更に高いレベルを目指すとともに、農業の儲かるかたち、農業や生産物そのものの付加価値を高める、「経済性」の追求にも取り組んでいます。

第一次産業である農業は、人々の健康を守り命を育むために欠かせない大切な存在でありながら、利益を生み出しにくい構造となっています。農業生産の先にある加工、流通、消費に至る“フードバリューチェーン”に入り込み、広く、“農”や“食”に対する課題の解決策を提供したいとの思いから、生産物の付加価値を高めることで、「持続可能な農業のかたち」を次世代を担う若い皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

本事業も今年で37回目を迎えます。学生の皆様には、日本や世界の農業において直面する課題を捉え、持続可能な農業を実現するための新たな発想を広く自由な観点で論じ、夢と若さあふれる提言を数多くお寄せいただきたいと思います。

論文の部：募集要領

当事業の趣旨に沿い、持続可能な農業の確立を目指した“先駆的挑戦”を内容としてください。担い手不足の解消、耕作放棄地の活用、スマート農業の推進、農作物のブランド化、農業の六次産業化など、あなたが学習・研究している様々な分野から独自の構想で提言し、その実現の過程、手法等を論理的に述べてください。また、今日的切り口として過去の応募作品の例も参考にしてください。

〈過去の応募作品の例〉

- 廃校となった小学校を、オンライン学習やスマート農業の講座実施に利用し、新規就農者創出の拠点にする提案
- ロボットトラクタを複数台利用した場合の無人防除システムの有用性と運用方法の検討
- 廃棄される農作物を乳牛の飼料として活用し、乳牛の病気予防と、付加価値を付けた生乳や乳製品の提案
- ベナンからの留学生による母国に適したトウモロコシ収穫ロボットの開発の研究
- 田んぼの稼われ者「ジャンボタニシ」を釣りの餌として販売することで利益を生みながら駆除する提案
- 大量発生したバツ科昆虫を食品長期保存に役立てるため、「保存料」として利用する提案
- フットサルクラブと農業という異色の組み合わせによる、ローカルエコノミー・モデルの提示
- 廃棄される農作物を染料として活用したおしゃれなワークウェアの制作によるフードロス等の削減提案

1. 応募資格：2026年4月1日時点で、下記項目の全てに該当する方

1) 所属	右記のいずれかに在籍する学生 <ul style="list-style-type: none"> ・大学 ・大学院 ・短期大学 ・専門職大学 ・農業大学校 ・農業短期大学 ・各種専門学校
2) 年齢	30歳以下 ※外国からの留学生(日本国籍でない方)は35歳以下。
3) 前提条件	(1) 作品は本人のもので、かつ、未発表のものに限る。 ※同一作品を他へ発表(応募)予定している場合の応募は不可。 (ご不明な場合は事務局までお問い合わせください。) (2) グループによる共同執筆可。 (3) 過去、論文の部入賞者の応募は不可。 (4) 過去、作文の部入賞者の応募は可。

2. 応募規定

1) 言語	日本語		
2) 作成ソフト	Microsoft Word ※PDFでの応募可。 ※手書き、紙原稿のスキャン不可。		
3) 用紙規格	A4サイズ 縦		
4) 書式	横書き		
5) 文字数 書体 文字サイズ	本文部分の総字数で、8,000字以上、12,000字以内とする。 他部分(表紙、要旨、目次、添付資料、データ・図表、参考文献等)の文字数は、総字数に含まない。		
	原則として、『横40文字×縦40行』のレイアウトとし、 用紙1枚あたり1,600字以内とする。 明朝体またはゴシック体で10.5～12ポイント		
6) 提出書類	(1) 要旨	A4サイズ 縦1枚に横書き、800字以上1,200字以内で作成すること。 (図表の使用は不可) ※冒頭に題名(論文タイトル)を明記すること。 ※氏名・学校名は記載しないこと。	
	(2) 論文原稿	以下①～④を1つの文書ファイルにまとめること。 ※図・表・写真等も本文ファイル内へ貼り付け、別ファイルにしない。	
		① 目次	必ず目次を付けること。
		② 本文	本文冒頭に題名(論文タイトル)を記載する。 ※氏名・学校名は記載しないこと。 ページ数を打つこと。 ※ページは文字数に含まない。
(2) 論文原稿	③ 図表・写真等	原則として、本文中の適切な箇所へ挿入すること。 タイトルの記入位置は、図・写真の場合はその直下に、表の場合はその直上とする。 また原則として挿入の位置は、 それらがレポート内の文章に最初に登場したページもしくはその次のページに入れること。 図・表の見やすさは、評価のポイントになるため、画質や精細に注意すること。 ※文字・数字は読めるサイズにし、必要な場合は、カラーで提出すること。 (凡例データの多い棒グラフなど) DVD、ビデオ等の動画資料は不可とする。	
	④ 参考文献	参考文献は、「題名、著者名、出版社名、刊行年、参考ページ」を、Webの場合は「サイト名、URL、アクセス日」を明記した一覧を末尾に添付すること。	
7) 応募方法	弊社ホームページからの応募に限る。 ※紙での郵送は不可。		

上記 提出書類(1)、(2)各ファイルを、応募申し込みサイトにアップロードすること。

作文の部：募集要領

当事業の趣旨に沿った作文をまとめてください。あなたの感じていること、夢や思いを、これまでの体験やその時の情景を描写しながら作文にまとめてください。

1. 応募資格：2026年4月1日現在で、下記項目の全てに該当する方

1) 所属	右記のいずれかに在籍する学生 ・農業中学校 ・農業短期大学 ※外国への留学生、外国からの留学生も可。(国籍不問)
2) 年齢	25歳以下
3) 前提条件	(1) 作品は本人のもので、かつ、未発表のものに限る。 ※同一作品を他へ発表(応募)予定している場合の応募は不可。 (ご不明な場合は事務局までお問い合わせください。) (2) 過去、作文の部入賞者の応募は不可。(奨励賞受賞者は可) (3) 過去、論文の部入賞者の応募は可。

2. 応募規定

1) 言語	日本語
2) 作成ソフト	Microsoft Word ※PDFでの応募可。 ※手書き、紙のスキャン不可。
3) 用紙規格	A4サイズ 縦
4) 書式	横書き
5) 文字数 書体 文字サイズ	総字数で、2,800字以上3,200字以内とする。 原則として、『横40文字×縦40行』のレイアウトとし、 用紙1枚あたり1,600字以内とする。 明朝体またはゴシック体で10.5～12ポイント
6) 提出書類	(1) 作文原稿 本文冒頭に題名(作文タイトル)を記載する。 ※氏名・学校名は記載しないこと。 ページ数を打つこと。 ※ページは文字数に含まない。
7) 応募方法	弊社ホームページからの応募に限る。 ※紙での郵送は不可。 上記(1)を応募申し込みサイトにアップロードすること。

募集期間・発表

募集期間	2026年6月1日(月)～10月20日(火)23:59までにエントリー
結果発表	【入賞結果通知】 2026年12月18日(金)予定 ※社内審査会で決定後、入賞者本人へ通知いたします。
	【入選発表会開催】 2027年2月5日(金) ※集合開催にて入賞者表彰を行います。 ※入賞者は入選発表会に出席いただけます。 ※開催場所は決定次第関係者にご連絡いたします。 ※開催方法は変更する場合があります。
	【入賞結果掲載】 2027年2月中旬予定 ※弊社ホームページに入賞者一覧を掲載いたします。
	【落選結果通知】 2027年2月下旬予定 ※落選結果通知を郵送いたします。 ※応募資格、応募規定を満たした方には応募記念品を同封いたします。

* 論文の部 入賞者の方へ

入選発表会会場にて、論文の内容をまとめたパネルを展示いたします。

入賞通知を受けた方は次の要領にて、パネル用資料を作成願います。

詳細は入賞者本人へ改めてご連絡いたします。

入選発表会がオンライン開催となった場合は、作成不要です。

1) 提出期間	入賞通知後～2027年1月15日(金) ※メールにて事務局まで送付してください。
2) 対象となる資料	論文要旨、論文内で使用したデータ(図、表、グラフ、写真等) ※論文内で使用していないデータは対象となりません。
3) パネル用資料 作成要領	Microsoft WordのA4サイズ 縦、横書きで2ページとします。 1ページ目に論文タイトル・学校名・氏名・論文要旨を記載。 2ページ目に論文内で使用した図表を貼付けしてください。 ※作成いただいた資料を事務局にてA1サイズのパネルに加工いたします。
4) 文字サイズ	12～16ポイント

表彰・賞金

論文の部

賞	受賞数	賞金	贈呈品
大賞	1編	100万円	表彰楯
特別優秀賞	2編	30万円	表彰楯
優秀賞	10編	10万円	表彰楯

作文の部

賞	受賞数	賞金	贈呈品
金賞	1編	30万円	表彰楯
銀賞	2編	10万円	表彰楯
銅賞	10編	5万円	表彰楯
奨励賞	15編		賞状、記念品

※論文の部グループ応募の場合、表彰楯は代表者に1枚、グループメンバーには表彰状を贈呈いたします。

審査方法

事務局審査	事務局による審査(応募資格、応募規定、類似・剽窃等の審査)
社内審査 (一次・二次)	弊社内選考委員による内容審査 ・入賞作品(論文・作文各13編)の選出 ・作文の部 奨励賞の決定 ※発表は入選発表会の開催後
最終審査	最終審査委員による審査 ・各賞の決定 ・論文の部については、最終審査委員による簡単なインタビューを実施予定

最終審査委員(五十音順、敬称略)

● 植松 千代美(うえまつちよみ)氏 [専門/植物育種学・環境教育]
東北大学大学院農学研究科修士課程修了、農学博士。明治大学農学部実験助手補、植物工学研究所の博士研究員を経て、1991年より大阪市立大学附属植物園に勤務。助手、講師、准教授を経て2022年3月退職。日本学術振興会より「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」受賞。植物園を利用した教育実践により大阪市立大学(現大阪公立大学)教育後援会より優秀教育賞受賞。2024年8月に岩手県盛岡市においてやまなし研究所を設立し、絶滅危惧種のイワテヤマナシ(ミチノクナシ)に関する知見の普及と保全に取り組む。主な著書に『食環境科学入門 食の安全を環境問題の視点から』(ミネルヴァ書房、共著)、『都市・森・人をつなぐ～森の植物園からの提言』(京都大学学術出版会、編著)などがある。

● 大杉 立(おおすぎりゅう)氏 [専門/農学]
東京大学農学部卒業、農学博士。農林水産技術会議事務局研究調査官、農業生物資源研究所光合成研究室長、農林水産技術会議事務局研究開発官を経て、2001年より2016年まで東京大学大学院農学生命科学研究科教授。同大学院農学生命科学研究科特任教授を経て、2020年より2025年まで八ヶ岳中央農業実践大学校長。現在、東京農業大学客員教授、日本学術会議連携委員、日本農学アカデミー副会長。これまでに、日本作物学会賞などを受賞。日本農学会会長、日本作物学会会長、総合科学技術会議革新的技術推進アドバイザーなどを務める。主な著書に『作物学(朝倉農学体系10)』(朝倉書店、共著)、『作物生産生理学の基礎』(農山漁村文化協会、共著)などがある。

● 近藤 直(こんどうなおし)氏 [専門/農業工学]
京都大学大学院農学研究科修士課程修了(農業工学専攻)、農学博士。岡山大学助手、助教授、愛媛大学教授などを経て、2007年から2025年3月まで京都大学大学院農学研究科教授。現在は京都大学名誉教授。これまでに、アメリカ農業工学会功績賞、農業機械学会賞学術賞、同学会森林技術賞、日本生物環境調節学会賞(学術賞)、(一財)日本機械学会ロボメカ部門技術業績賞、農林水産省農業技術功労者表彰、日本農業工学会賞、日本農学賞、文部科学大臣表彰科学技術賞、(公社)大日本農会緑白緩有功章などを受賞。主な著書に『農業ロボット(I)(II)』(コロナ社)、『生物生産工学概論—これからの農業を支える工学技術—』(朝倉書店)、『Physical and Biological Properties of Agricultural Products』(京都大学出版)、『農業食料工学ハンドブック』(コロナ社、いずれも共著)などがある。

● 佐藤 年緒(さとうとしお)氏 [専門/環境・科学技術]
東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程修了、博士(学術)。(株)時事通信社の記者、編集委員として地方行政や科学技術、地球環境や水問題を報道。2003年退社後、国立研究開発法人 科学技術振興機構発行の科学教育誌「Science Window」編集長などを経て、現在、環境・科学ジャーナリスト、日本科学技術ジャーナリスト会理事。著書に『森、川、海をつなぐ自然再生』(中央法規)、『つながるいのち—生物多様性からのメッセージ』(山と溪谷社、いずれも共著)などがある。

● 中嶋 康博(なかしまやすひろ)氏 [専門/農業経済学]
東京大学大学院農学系研究科博士課程修了、農学博士。東京大学農学部助手、同大学院農学生命科学研究科助教授、准教授、教授を経て、東京大学名誉教授。2025年より女子栄養大学(現・日本栄養大学)栄養学部教授。日本農業経済学会学術賞及び日本フードシステム学会学術賞を受賞。現在、食料・農業・農村政策審議会会長・企画部会長・食糧部会長、日本農林規格調査会会長、農林水産省国立研究開発法人審議会会長、日本学術会議議員、(公財)生協総合研究所理事長などを務める。主な著書に『食品安全問題の経済分析』(単著、日本経済評論社)、『食の安全と安心の経済学』(単著、コープ出版)、『食の経済』(編著、ドメス出版)、『フードシステムの経済学』(共著、医歯薬出版)などがある。

応募先アドレス

ホームページ

<https://www.yanmar.com/jp/agri/agrilife/prize/>

よりご応募ください。

権利関係について

- 応募にあたり記入いただいた個人情報は、本懸賞にかかる審査及び審査結果の通知並びにこれらに付随する行為のために利用します。本目的以外で利用する場合は、必ず本人の同意を得たものに限りません。
- 応募作品に応募者の学校での研究内容等を反映する場合、予め指導教官等関係者の了承を得たものに限りません。
- 本懸賞にかかる入賞者のいかなる権利も、第三者に譲渡することはできません。
- 応募作品のデータは返却しませんので、必要な方はファイルをお手元に保存するようお願いします。
- 応募作品の著作権は著作者本人に帰属します。ただし、入賞者は主催者に対し、応募作品が入賞した時点(入賞者に対し主催者が入賞の連絡をした時点)で下記について許諾するものとします。また、入賞者は、主催者の事前の書面による承諾なく、主催者以外の第三者に入賞作品を利用させることはできないものとし、また、他の懸賞またはコンテスト等に入賞作品を応募することはできないものとします。
(1)入賞作品を入賞作品集として編集し、①入賞者、学校、後援団体、審査委員等、その他関係各所へ無償配布すること、②翌年度の本懸賞広報活動として全国の大学、図書館等へ無償配布すること、③弊社ホームページ上で2027年4月から5年間掲載すること
(2)本懸賞を広報するため印刷物やホームページ、弊社SNS等で利用すること
- 主催者ホームページ、入賞作品集及び翌年度の本懸賞の募集要領その他同懸賞の広報資料にて、入賞者の学校名、学部、学年及び氏名を公表するとともに、顔写真を掲載します。入賞者は、入選発表会において主催者が撮影した入賞者の肖像が含まれる画像、動画及びインタビュー内容等について、主催者ホームページ、弊社SNS、入賞作品集等で使用することに同意するものとします。

問い合わせ先

- フリーダイヤル 0120 - 376 - 530 (月～金 10:00～17:00)
- メールアドレス ronbun@yanmar.com
- 事務局 〒702-8515 岡山県岡山市中区江並428 ヤンマーアグリ株式会社 人事総務部内 ヤンマー学生懸賞論文・作文募集事務局
- ホームページ <https://www.yanmar.com/jp/agri/agrilife/prize/> 参考として第32回～第36回の入賞作品集を掲載しております。

主催・後援

主催：ヤンマーアグリ株式会社

後援：農林水産省

一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構
公益社団法人 大日本農会

◎一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構

グリーン・ツーリズム等の取組みにより培ってきたノウハウと人的ネットワークを活かした中間支援組織として、都市と農山漁村の交流促進を通じた農山漁村活性化支援、都市農村交流の情報収集・発信、地産地消の推進等を行っている。(2001年、農林漁業体験協会、ふるさと情報センター及び21世紀村づくり塾の3財団法人の合併により設立。2013年4月より一般財団法人に移行。)

◎公益社団法人 大日本農会

明治14年に設立されたわが国で最も歴史ある全国的な農業団体。設立当初から皇族を総裁としていただけており、現在は、七代目として秋篠宮皇嗣殿下を総裁に推薦している。農業の発展及び農村の振興を図ることを目的に、農事功績者表彰事業、農業・農村に関する調査研究事業、会誌「農業」の刊行等を行っている。2011年7月1日、内閣府より「公益社団法人」に認定。

(前年)第36回ヤンマー学生懸賞論文・作文募集入賞(敬称略)

論文入賞者(代表者)

大賞

太田 空良 明治大学/農学部

特別優秀賞

原 灯 立命館大学/食マネジメント学部
石川 紗丞 静岡県立農林環境専門職大学/生産環境経営学部

優秀賞

小谷 凜乃 明治大学/農学部
山下 凌平 京都大学大学院/公共政策教育部
梅山 俊哉 鹿児島県立農業大学校/畜産学部
高橋 怜那 産業能率大学/経営学部
鈴木 祥 明治大学/農学部
城山 和輝 岐阜大学大学院/自然科学技術研究科
原田 直和 明治大学/農学部
安達 裕菜 福島大学大学院/食農科学研究科
富田 旭 目白大学/経営学部
鎌田 涼平 京都大学大学院/法学研究科

作文入賞者

金賞

佐野 叶芽 千葉県立農業大学校/農学科

銀賞

齋藤 将人 栃木県農業大学校/農業生産学部
古屋敷 貫汰 鹿児島県立農業大学校/畜産学部

銅賞

松田 周直 愛知県立農業大学校/教育部
今野 陽翔 東北農林専門職大学附属農林大学校/果樹経営学科
益田 夏輝 鹿児島県立農業大学校/農学部
小坂橋 遥 福島県農業総合センター農業短期大学校/農業経営部
荒川 愛香里 福島県農業総合センター農業短期大学校/農業経営部
菱沼 寿莉 福島県農業総合センター農業短期大学校/農業経営部
杉山 光 鹿児島県立農業大学校/畜産学部
寺地 敦真 鹿児島県立農業大学校/畜産学部
島田 麻衣花 大分県立農業大学校/農学部
伊藤 悠希 千葉県立農業大学校/農学科

奨励賞

橋山 昊騎 愛知県立農業大学校/教育部
牛島 桜子 長崎県立農業大学校/園芸学科
大場 汰駕 長崎県立農業大学校/園芸学科
高田 俊志 長崎県立農業大学校/畜産学科
坂井 弓月 愛知県立農業大学校/農学科
木村 柊二 東北農林専門職大学附属農林大学校/野菜・花き経営学科
八代 朋樹 福島県農業総合センター農業短期大学校/農業経営部
大橋 茉奈 福島県農業総合センター農業短期大学校/農業経営部
南 ハスナ 福島県農業総合センター農業短期大学校/農業経営部
井上 真梨子 愛知県立農業大学校/教育部
鴨下 宙皓 愛知県立農業大学校/教育部
吉田 潤弥 愛知県立農業大学校/教育部
川崎 葵 鹿児島県立農業大学校/農学部
山田 花依良 鹿児島県立農業大学校/農学部
江本 千駿 東北農林専門職大学附属農林大学校/畜産経営学科

※同一賞は応募受付順に記載しております。
※弊社のホームページ(<https://www.yanmar.com/jp/agri/agrilife/prize/>)には、第32回～第36回の入賞作品集を掲載しております。

受賞者の声

第36回「論文の部」大賞

太田 空良さん



①応募のきっかけは?

私が在学する学科では、フィールドワークの一環として実際の農村に足を運び、現場で働く方々と交流を重ねてきました。高齢化が進む農家の現実、後継者がいない不安——そうした声に直接触れたことが、この論文に取り組むきっかけです。

②賞金の使い道は?

私は国内旅行の費用に充てるつもりです。これまでフィールドワークで農村を訪れる機会はありませんでしたが、それ以外にも気になっている場所がたくさんあって、大学生のうちにぜひ全部回りたいと思っています!

②論文執筆に苦労した点は?

最も苦労したのが、統計ソフトを使ったテキストデータの分析です。夜中の3時まで作業した日もあるほど、データの整理や辞書の確認など地道な作業が山積みでした。

④応募を検討している学生にメッセージを!

自身の作品を権威ある先生方に評価していただけるこの機会が、本当に貴重な経験です。一人でも複数人でも気軽に応募してみてください。その一歩が、きっとかけがえのない経験になるはずです!